

税があつてこそ

さいたま市立浦和中学校3年 野口 花鈴

みなさんは、ヘルプマークというものをご存知でしょうか。

私は、WPW（ウォルフ・パーキンソン・ホワイト）症候群という持病を抱えています。これは、簡単にいうと不整脈を起こすことがある病気です。このような、内部障害や難病の患者、義足や人工関節を使用している患者、精神障害、知的障害の人等、援助や配慮を必要としていることが外見では分からない人々が周りに配慮が必要なことを知らせることで、援助を得やすくなるように作成された東京都によるピクトグラムというのが、ヘルプマークです。

私はこのヘルプマークのデザインを用いて作られた、ヘルプカードをいつも持ち歩いています。緊急連絡先や病名などが記載されており、万が一の時に周りに理解や支援を求めるためのものです。

そして、そのヘルプカードは、税金によって作られているそうです。

それを知った今、私は税金というものの意義を身に染みて感じました。いつ発作が起こるか分からない病気を抱えながら生活するには、不安が伴います。しかし、私は毎日をととても楽しく、笑顔で過ごせています。ヘルプカードがあることで周囲の人々は病気について理解してくれて、いざとなったら助けを求めることができるからです。

つまり、税金によって、私の生活はとても支えられています。

また、ヘルプカードに限らず、税金は様々な所で私の生活を支えてくれています。登下校時に安全で整備された道を通れるのも、学校で授業を受けることができるのも、消防や警察がまちを守ってくれることで安心して暮らせるのも、税金があつてこそです。

私の生活に、税金は必要不可欠です。

しかし、私は税金にありがたみを感じられているのでしょうか。答えはNOでしょう。今の安定した生活に慣れてしまっているのだと思います。もし税金が無かったら、今の生き生きとした私の姿はないでしょう。私はこの作文を通して、二つの強い意志を持つことができました。一つ目は、税金を納めてくださっている人々への感謝を忘れない、ということです。私の生活は、笑顔は、納税してくれる人がいなければ成り立ちません。それはとても大切なこと、忘れてはいけないことだと強く感じました。二つ目は、将来しっかりと納税をしようという思いを持たせたい、ということです。納税をして今まで助けてくださった人々に恩返しするとともに、税金の大切さや重要さを後世の子どもに伝え、より良い社会をつくるのに繋がっていくと思います。

社会をつくる一員として、立派な大人になりたいです。